



2015年4/5月号
 新版 第73号
 編集
 駿台甲府高等学校
 駿台甲府中学校
 駿台甲府小学校

新しいスタートに添えて

中学・高校 校長 八田 政久



私は、昨年度まで3年に亘ってお勤めになってこられました、酒井徹哉前高等学校校長と河崎哲郎前中学校校長から2本のバトンを受け継ぎました。歴代校長に繋いでいただいた高校三十五年間、中学二十二年間の歴史を大切にし、新たなスタートに身の引き締まる思いです。新たな歴史を積み重ね、「名門校」としての地位を確立するため、誠心誠意努めていく所存ですので、ご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

先の入学式において、学園の建学の精神であります「愛情教育」「チャレンジングスピリット」に基づき、お話しさせて頂いた、「他者理解の精神」「基本的生活習慣の確立」「最大限の努力をする」という三点を常に意識した生活を送って頂けたら幸いです。本校がこれから目指すべき道は、急激に進むグローバル化に対応する能力を身に着け、様々なツールを使って、あらゆる問題に立ち向かい、自分で解決し、さらには、発信することが出来る人材を育成することです。

当然のことですが、グローバル化とは単に英語を話すことではありません。英語を中心とした言語を用い、様々な国の人々と議論を重ね地球全体で考えていくことです。ツールとしての語学を習得していかねければ自分自身の主張を伝えることが出来ません。答えのない議題に対して、はっきりと主張するためにも「読む」「聞く」という2技能だけではなく、「話す」「書く」を加えた4技能が必要なのです。また、日々変化する情報を瞬時に検索するためには、タブレット端末に代表されるIT機器を「使われる」のではなく、「使いこなす」ことが重要になります。ツールを最大限に活用する能力を育成することが急務であると考えています。

環境や健康の問題では以前から「Think globally, Act Locally」(地球規模で考え、足元から行動せよ)と言われています。地球規模で考えるためにも、「百聞は一見にしかず」です。様々なところに出て経験を積み、足元から見直すことが今後の社会には必要ではないでしょうか。

現在まで学校教育を支えてきた「知育」「徳育」「体育」のバランスは重要であることに変わりはありません。また、学力の3要素である「基礎力」「思考力」「実践力」にさらに磨きをかけ、駿台甲府から巣立ってくださることを願っています。

私の歩んできた道

私は、山梨県甲府市で生まれ、小高と過ごしてきました。当時の中学は大規模校が多く、特に私のいた中学は在籍生徒が1700名を超えるマンモス校でした。

大学4年間は県外で過ごし、バブル全盛期に就活を経験し、都会に憧れつつ、山梨に戻され、縁があつて本校に奉職させて頂き、28年間、保健体育の教員として教鞭をとってきました。

私の人生を大きく左右してきたものはハンドボールです。入学式で「一流になるためには、一万時間必要である」という話をさせていただきましたが、約40年間取り組んできたものの、まだまだ、一流とは言えません。ただし、「継続は力なり」という言葉通り、続けることによって、得られたものは計り知れません。

学校通信「強い網」について
 東京大学医学部教授の北村聖氏が、医学部の学生医学部の教育について次のように述べました。
 「我々は、東大医学部生には、より多くの獲物を持たせて旅立たせるのではなく、より強い網(あみ)を持たせて旅立たせることに決めた。」本校生徒にも、将来「強い網を備えた人物」となって、世界で活躍して欲しいとの願いを込めて、元校長の山口博伸先生が学校通信にこの名称を冠したことに由来します。

自分自身は高校時代に全国大会に出場することは出来ませんでした。顧問として生徒たちに40回以上も連れて行ってもらいました。海外遠征も行った、国内はもちろん、海外にも知人が出来ました。多くの卒業生が、今でも国内・海外でハンドボールを続けてくれています。

私自身も指導者としてまだまだ勉強です。指導者が辞める時は、指導を辞めるべきです。「players first」の精神を忘れず勉強していくつもりです。

最後に、「真面目さ・素直さ・明るさ」があれば、高校生としてやっていくことが出来ます。また、人としてもやっていくことが出来ます。この言葉は23年前初めてインターハイに出場した時から部のモットーとして掲げています。



新年度を迎えて

小学校 校長 坂本 宏行

新入生保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。チャレンジング・スピリットと愛情教育を建学の精神とする駿台甲府小学校の教育理念にご理解を賜り、本校を選んでいただきましてことにお礼申し上げます。本校では、一人ひとりを見ながら、その個性に応じ、愛情を持って教育に当たりますので、学校とご家庭が手を携えて、お子様を育てて行きますよう。

入学式で一年生の皆さんに毎日駿台甲府小学校に楽しく通うのにはどうしたらいいのか、三つのお話をしたので紹介します。

一つめはお友だちと仲良くしましょう。お友達と仲良くすることは、学校生活を明るく過ごすために一番大事なことです。同じクラスのお友達、隣のクラスのお友達、上級生のお兄さんやお姉さんともお互いに挨拶をして、お話をしましょう。

二つめは、先生のお話をよくききましょう。先生のお話をよく聞くことは、君たちが賢くなるために一番大事なことです。先生のお顔を見て、何を話しているのかしっかりと聞きましょう。

三つめは、自分のことは自分でしましょう。このことは、君たちが成長していくために一番大事なことです。制服を着ること、学校の支度をすること、お勉強すること、全部自分でしましょう。おとうさんやおかあさんに手伝ってもらうことを少しずつ減らしてください。

さて、四月七日より全校児童で新年度をスタートしました。始業式では、新しく赴任された先生など、四名を紹介しました。

また、今年度は、モラルやマナーが低下している中で、駿小生という意識をもった言動を身につけるために「あいさつ・マナー・食育」を目標としました。

「あいさつ」はよりよい人間関係を築くためのきっかけであり、礼儀の基本であります。大切さは各自で認識され、個人差もありますが、子どもたちが仲良しになってくれることを願っています。

同年齢・異年齢の集団生活の場でもある学校は、子どもたちにとって多くのマナーを学ぶ場所でもあります。他人を思いやり、迷惑を掛けない言動を身につけることは大切であると考えています。

給食・お弁当の時間は、教室内であっても食事にふさわしい環境、準備・会食・片付けを通し、奉仕・協力などを学びます。また、バランスのよい栄養を摂取することは成長期である小学生には不可欠であるので、出来るだけ好き嫌いを無くし、たくさん食べて欲しいです。

駿台甲府学園は、グローバル化とITの推進を計画する中で、電子黒板やタブレットを活用した双方向の授業の展開、小学校英語のカリキュラムの改良、英語キャンプの実施、親子ホームステイの実施検討、学童保育での英語教室の新設など駿小では新しい一歩を踏み出し、チャレンジします。

本校では、教育課程を先取りすることなく、教科の基礎力を付けることを重視しており、自ら考えること、豊かな情操を身につけること、常識をもって判断すること、こういったことがあれば、学力は自ずと付いてきます。早熟より大器晩成を、つまり優秀な児童・生徒であることより、尊敬される社会人になることをめざして教育を行います。

新しい大学入試

指導監 石川 博

大学入試が変わりつつあります。二〇一六年から東京大学で推薦入試が導入されたり、私大でAO型の入試が増えたりしています。そして、今後ますます変わります。昨年末に公表された中教審の「高大接続に関する答申」では、以下のように記されています。

「わが国が成熟社会を迎え、知識量のみを問う『従来型の学力』や、主体的な思考力を伴わない協調性はますます通用性に乏しくなる」、「画一的な一斉試験で正答に関する知識の再生を一点刻みに問い、その結果の点数のみに依拠した選抜を行うことが公平であるとする、『公平性』の観念という極端

は断ち切らなければならない」。こういった考え方の下、次のような大学入試制度改革が計画されています。国レベルで二種類のテストが導入されます。一つは、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」で、二〇一九年度から高校二年及び三年で実施します。必修教科目の「知識・技能」の確実な習得を重視し評価します。大学入試では、自己推薦や指定校推薦などの要件として使用される可能性があります。

もう一つは、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」で、入学希望者が、これからの大学教育を受けるために必要な能力をどの程度身に付けているかの評価を目的とします。現在のセンター試験に代わるもので、二〇二〇年度から、年複数回の実施を予定。現

行の教科・科目の枠を越えた「思考力・判断力・表現力」を評価するため、「教科型」に加え「総合型」の問題を出題します。英語などは民間の資格試験の活用も検討しています。そしていずれの試験でも段階型の評価となり、一点刻みの点数を使用しません。現在の中学一年生から受けることとなります。これらの改革は、記憶力より思考力を重視し、複雑な問題に対応する能力を求める方向であり、高校や生徒にとつては、よりふさわしい人物が大学に入れるという意味で、歓迎すべき方向でしょう。本学園でも今まで以上に、考える力を付けさせるよう、授業・評価・入試を改革していきます。

個別の大学入試をどうするのかは、各大学とも模索している状態です。中教審は、国の改革を待たず、大学ごとにすみやかに改革するよう求めています。各大学の情報を集めるとともに、入試方法について我々が提言していくことも考えられます。その提言を大学が受け入れてくれる可能性があるのですから。大学入試がどうなるのか、を予測すると同時に、どうしていくか、という観点で入試改革について考えていきたい、と思います。

「研究紀要」第8号 発行

小・中・高の教員が執筆した「研究紀要」が刊行されました。普段の研究成果や、一貫教育の効果の分析、今後の教科教育の見通しなど、10本の多彩な論考を収録しました。各図書館に置くほか、ご希望の保護者にお渡しできますので、塩部校舎の受付にお申し出ください。

世界に向かう駿台甲府

グローバル推進室 室長 河崎 哲郎

平成27年4月「グローバル教育推進室」が発足しました。英語名は、Global Education Committee (略して GEC) です。

「平成27年度着手予定事業」世界の国とのネットワークづくり

駿台には、海外校として、アメリカ、中国、台湾、韓国、東南アジア各地に校舎があり、在留邦人の小・中学生を中心に、指導を行っています。今回、GECの開設に当たり、これらの地域の校長を通じて、現地の中学高校を紹介して頂き、本校の生徒達と、また我々教員とも交流できるネットワークを作る予定です。

英語教育の更なる充実を図る(駿小)

本年度第1回の英語サマーキャンプを実施します。小学6年生の希望者を対象に本校の清里ロッジで2泊3日の日程で行います。アメリカの大学生たちと様々な英語尽くしのプログラムをこなします。小学校の先生も引率しますのでとても楽しい企画になると思います。最終日には保護者の方にも来て頂き、その成果をご覧になって頂く予定です。さらに親子海外研修の準備に入る予定です。これは希望する親子を対象に、1週間ほど英語圏へ行き、親子別々に英語の研修を行い、その中で2泊3日ほど児童だけホームステイするという企画です。

(駿中)

既の実施しているオーストラリア研修を更に充実させていきます。昨年度は46名の参加があり、先日保護者の皆様も招待して報告会を行いました。DVDによる研修風景の報告も行い大盛況でした。詳しくは後述の引率教員からの報告をお読み下さい。また、

English Center を開設し、英語に興味のある生徒が昼休み等に立ち寄り、ネイティブの先生と会話を楽しんだり、異文化に触れる場を提供して行きます。**(駿高)**

海外研修を2本企画準備します。1つは夏に実施する短期(2週間)ホームステイプログラムです。独自に開発した中学と同じプログラム(現地生徒との協働企画)をアメリカ東海岸で実施する予定です。本年度3月実施に向け、高2を対象に希望者を募ります。ハーバード、イェール大学などの訪問見学も予定しています。もう一つは、

1年間の留学制度です。例えば高1の夏から1年間、本校と提携する海外の高校へ通い、その間、現地で取得した単位を有効にするというものです。従って、帰国した時に、留年することなく高2に戻れるというものです。勿論、高2の夏から行くことも可能です。

その他、海外生徒の本校での短期(2週間)ホームステイプログラム、海外帰国子女の積極的受け入れ、お茶の水にある駿台国際センター、駿河台大学国際交流委員会と連携して、「Toei」など英語4技能の外部試験の情報を提供し、本格的に海外の大学を目指す生徒を輩出して行く予定です。

学びのイノベーションがはじまる

IT推進室 室長 小宮山 修

今年度、ICT(情報通信技術)を活用した「これからの学校」と「未来の教室」を構想、立案するための部門として「IT推進室」が立ち上がりました。最新の学校情報化の動向と本校の取り組みについてご紹介いたします。政府は、2020年に「21世紀にふさわしい学校教育」実現を目指し、児童生徒1人1台の情報端末による教育の本格展開を検討推進しています。これを踏まえ、大阪市や佐賀県武雄市等においては、1人1台の情報端末による教育の情報化に積極的に取り組んでいます。

ICTは、最近のめまぐるしい技術革新により、時間的・空間的制約を超えること、双方向性を有すること、カスタマイズが容易であることを生かし、教育現場への導入が進んでいきます。この特徴を生かすことで、わかりやすい授業が期待されることはもちろん、1人1人の能力や特性に応じた学び方「個別学習」、子供たち同士が教え合い学び合う協働的な学び方「協働学習」を推進することができます。さらに「一斉学習」「個別学習」「協働学習」それぞれを組み合わせた学びの場を形成することができます。

教育の情報化の実現には、普通教室に1人1台の「タブレット」「電子黒板」「無線ネットワーク」「クラウド」の4つのICT機器の環境が求められます。これらICT環境の活用による授業の変化として、「児童生徒が受け取る情報量の増加」「教材提示、配布、回収時間の短縮」「学習過程の見える化」が挙げられ、指導内容の自由度を大きく高めると期待されています。

たとえば算数の授業では、大きな三角定規、黒板、チョークで説明していたことが、教材提示装置やUSBカメラ、電子黒板などを組み合わせると、鉛筆がなくなるわけではありません。すぐに開ける、充電がいらない、瞬時に書き込み、消せるといった便利な点もたくさんあります。デジタルとアナログのよいところを使い分けていくことが大事なのです。



した、「学びのイノベーション」が、はじまるようになっています。当然ながら、単にICT機器を導入しただけでは、上で述べた想定される効果は期待できないのは明らかで、教材の研究と教員の授業構想力を高めつつ、試行錯誤を重ねながら進めていく計画性が重要であると思います。IT推進室では、「これからの学校」と「未来の教室」を構想し、「未来型の教育環境」を実現するための活動に、職員室と協力し、取り組んでまいります。



は、小学校においては、全教室に電子黒板が既に設置され、昨年度より3年生のタブレット本格活用が始まり、年次計画で拡充していきます。中高でも、電子黒板、タブレットの試験導入を計画しています。ICTを活用

中学・オーストラリア研修

山口 倫明・原 大介

3月16日から31日までの日程で数
年ぶりに中学3年生を対象とした海外
研修を実施しました。今年度は突然の
開催にも関わらず、46名の参加があり
ました。人数の都合もあり、オースト
リアの2都市（アデレードとメルボ
ルン）に別れ、実施しました。

メルボルン組は、ヴィクトリア州の
州都であるメルボルンから北西方向
100キロほど車で行ったところのバラ
ラットという町にある私立学校である
「バララット・グラマー」（幼稚園の
年長〜高校3年生まで）にて研修を実
施しました。

まず、バララットは人口10万人弱の
地方都市で、ゴールドラッシュで栄え
た古い町です。そのため、中心街から
車で20分ほど行けば、もうそこは、北
海道富良野を彷彿とさせるような感じ
で、一本道に牧場・農場が延々と続く、
大自然に囲まれた町です。

学校自体
も中心街か
ら6キロほ
ど離れたと
ころにある
ため、敷地
も広大で、
学習施設だ
けでなく、
芸術のため
の施設、理
科の実験施設、体育施設など全体的に



施設が充実していると感じました。ま
た、オーストラリアという国が海外か
らの移民をたくさん受け入れているこ
ともあり、現地の生徒の中には海外か
らの留学生（約20名）もたくさんいま
した。そんな恵まれた環境に身を投じ



た15名は、
英語での自
己紹介・オ
ーストラリ
アに関して
興味関心の
あることに
対する調査
結果のプレ
ゼンテーシ
ョン・買い

物実習などの学習だけでなく、メルボ
ルン観光・オーストラリアの動植物、
歴史、文化などに触れてきました。ま
た、現地の小学1・4年生・中学3年
生と一緒に授業を受けたり、日本語を
教えたり、関わったりする中で、のび
のびと英語を通しての体験活動をし
ました。

アデレード組は、南オーストラリア
州都であるアデレードから南方向へ
20kmほど車で行ったところのウッド
クラフトという町にある私立学校で、
国際バカロレア認定校である「ウッド
クラフト・カレッジ」（小学1年生〜
高校3年生まで）にて研修を実施しま
した。

学校の敷地の中には、広い運動場や
体育館だけでなく、音楽館や小中高共
通の大きな図書館など、文武ともに充
実した施設を兼ね備えていました。

そのような
恵まれた環境
の中で、生徒
は英語授業を
はじめ、現地
生徒とのデイ
スカッション、
アデレード市
街の散策、そ
して野生公園
におけるオーストラリア固有動物との
出会いなど、様々な体験活動をするこ
とができました。



今回の海外研修を通して、生徒たち
は、日本においては体験することができ
ない貴重な体験をすることができまし
た。



ほぼ周囲に日本人がいない環境で英
語三昧であった生徒たちは、時に心細
くなり、と
ても2週間と
いう日々を過
ごすことはで
きないと最初
は感じていま
した。しかし、
ホストファミ
リーとの最後
の別れの時に

は、生徒たち一人ひとりそれぞれの
思いを胸に、帰国の途につきました。
帰国してから参加した生徒たち数人
を見かける機会がありました。その時
の表情はこれまでのものとは全く違っ
て理解しました。この研修の意義を改め

修学旅行を終えて

中学校 永山 一宏

21期生の第1タームを締めくくると、
広島・京都への修学旅行が、大きなト
ラブルもなく有意義かつ無事に終わ
りました。

なかでも被爆
者の方による平
和講話では、広
島県被団協理事
長である坪井直
さんにお越しい
ただき、その生
々しい体験談と核兵器廃絶・戦争反対
への熱い思いに接した生徒たちの中
には、感極まって涙を浮かべる者も散見
されました。



また、京
都・建仁寺で
の座禅体験や
僧侶による法
話にも、生徒
たちは何かを
感じたよう
でした。

そして、旅
行のクライマックスともいえる一日班
行動では、多くの名所旧跡見学や自分
たちのプランに従った自主行動などを
通して、貴重な体験とともに級友との
関係を見つめ直した一日となりました。
残念ながら、いくつかの班が集合時間
に遅れて夕食後にお目玉をいただきま
した。ここから学んだことも多かつ
たのではないではないでしょうか。

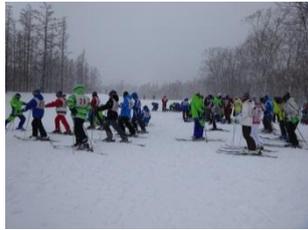
高校普通科では、一年次の三月に、希望により3コースに分かれて研修旅行を実施します。

ハプニングは旅のエッセンス

(北海道) 浅川啓太

平成二十六年研修旅行北海道コースは、きつと駿台甲府高校研修旅行の歴史に刻印を残したでしょう。

予定よりも早く羽田空港に到着し、意気揚々と飛行機に乗り込んだ旅行団。フライトを満喫し、「当機は、あと十五分ほどで着陸態勢に入ります。」というアナウンスに胸を躍らせた。ところがそこから更にフライトを満喫すること



一時間半。ようやく、空港に到着しました。しかし、どこか見覚えのある空港。そう、羽田空港です。新千歳空港が悪天候のため、着陸できずに戻ってきたので

す。そのような中、我々は「一日に二回飛行機に乗ることができる！」と無理やり自分達に言い聞かせ前向きに研修旅行を続けました。ホテル到着時、皆の頬がこけているように見えたのは気のせいでしょう。

その後の四日間も毎日ハプニングは続きました。ゴンドラの運休、JR小樽・札幌間の運休、予定していた帰りの高速道路での火災、飛び石でバスのフロントガラスにひびが入るなど。しかし、生徒たちはそのような状況下においても北海道のパウダースノー、食文化、アイヌ文化などを学び、体感し、

文字通り全身で北海道を満喫している様子でした。

社会に出ていくと特に必要とされる「生きる力」。生徒たちは、この五日間を通して、座学だけでは得られない「生きる力」の片鱗を肌で感じられたのではないのでしょうか。度重なるハプニングへの迅速な対応や見知らぬ土地での自主行動、無事に「この研修旅行」を乗り切ったことなど、その一つ一つが生徒たちを一回り大きくしてくれたはず。この五日間の経験が彼らの今後の学校生活、卒業後に生きていくことを願っています。

沖縄研修…

それは未来を考える礎

(沖縄) 池田健太郎

沖縄には語り継がなければならない歴史があります。沖縄には目を背けずに考えなければならぬ現実があります。そんな過去と現状と向き合うことで、真剣に未来を見つめたい。



そう思う生徒たちと一緒に、4泊5日の沖縄研修に行ってきた。

沖縄では、みんなが気の知れた仲間たちと楽しい時間を過ごしていたようでした。

初日から世界遺産を見学し、2日目にはマリンスポーツで大自然に触れた後、浜辺でバーベキューを楽しみ、美ら海水族館を鑑賞するなど楽しい時間もある

りましたが、やはり3日目の沖縄研修のメインともいえる平和講和の前には表情も引き締まり、思いのこもった熱い話をそれに応えるように熱心に聞き感概深い表情で見学している様子が印象的でした。チビチリガマとシムクガマ、この対照的な結果を招いた2つの壕の存在に触れられたことは、彼ら自分たちの未来を考える上での刺激になったと確信しています。その後わずかな時間ではありましたが立ち寄った嘉手納基地を見下ろすその眼には、未来を見据える深い思いが宿っているようにも思えました。生徒たちが沖縄で仲間と共に過ごした5日間という時間は、今後の彼らの人生の大きな糧となったことと思います。

グローバル社会への第一歩

(シンガポール) 若林秀則

生徒98名、教員4名で、3泊5日のシンガポール研修に行ってきました。初めて海外へ行く生徒も多く、パスポートの申請、シンガポールについての調べ学習、現地大学生との英語によるコミュニケーションの準備など、授業だけでは学ぶことができないことに取り組みました。

初日。3コースの中で一番早い朝5時出発。成田へ到着し、8時間の長いフライトを経て、チャンギ空港に到着。現地は19時を過ぎても30℃を超えており、南国の暑気と湿気に圧倒されました。

二日目。朝食後、本校21期卒業生でシンガポール在住の上月佳代さんによる英語での講演。駿高での生活と進路選択、海外での生活について、高校生



ちでしたが、準備してきた英語が役に立ったのでしょうか、ホテルに戻ってきた生徒たちと大学生の笑顔が印象的で、国境を越えて交流を深められたようです。

三日目。シンガポール南端に位置するセントーサ島での一日自由行動。海外で友人と過ごしたこの一日は生徒にとってかけがえない思い出となったはず。



四日目。シンガポール市内にある植物園、マールライオン公園を見学し、ナイトサファリへ。旅の疲れも見せず、元気一杯の生徒に対し、疲れの見え始めた教員団。その夜23時に日本へ出発。

最終日。朝8時に成田空港着。気温差20℃は体に堪えましたが、無事に帰りました。この5日間の体験が生徒の視野をさらに広げてくれたことと思えます。最後に、改めて日本食の美味しさを実感しました。慣れ親しんだ味が一番です。

今井グラウンド人工芝化記念式典

サッカー部顧問 長谷川 亮太



3月29日(日)に今井校舎グラウンド人工芝事業記念式典が行われました。

小中高のサッカー部が百名ほど参加しました。式典では理事長から施工業者に感謝状が贈呈され、同窓会実行委員長からは記念品が理事長に贈呈されました。

した。天候も心配されましたが小学生のオープニングゲームでは白熱した展開の中、緑に映える子供たちの笑顔が印象的でした。ゲストで招待したヴァンフォーレ甲府の盛田選手、堀米選手、アドリアーノ選手もサプライズで途中からゲームに参入し、会場を沸かせてくれました。



の後行われたヴァンフォーレ甲府3選手との交流会では小学生とミニゲームやトークショーなどで子どもたちとコミュニケーションがとれ、最後に記念のサッカーボールまでいただきました。子どもたちにとっては最高の経験となったことでしょう。ご協力ありがとうございました。

小学校新年度スタート

副校長 内藤 真一

4月6日、駿台甲府小学校は77名の新入生を迎えました。駿小の第14期生です。少し大きめの制服に身を包んだ新入生は6年生のお兄さん・お姉さんにエスコートされて入場してきました。担任の先生から名前を呼ばれると全員が大きな声で返事をし新入生代表の2人が「たくさん遊んでたくさん学びます」と立派な宣誓してくれました。



式のなかで、5年生がお祝いの合唱をする、新入生は目を輝かせて聞き入っていました。また、楽団が「となりのトトロ」の演奏すると、曲に合わせて体をゆすり、リズムをとるほほえましい光景もみられました。この日は初夏を思わせる陽気でしたが、桜の花もまだ咲いており、14期生の入学をお祝いしてくれました。

さて、入学式の翌日から新入生も給食を食べ、6校時までの授業が始まります。最初の1週間、一人の欠席もなく、みんな元気に駿台甲府12年間をスタートすることができました。かわいらしいエピソードをひとつ紹介しましょう。

新任教員の紹介

高校 副校長 筒井 揚介

今年度から駿台甲府学園で教えていただくことになりました新任の先生を三名ご紹介いたします。

普通科三年副担任の小笠原達也先生(数学)は、甲府北東中出身で本校二九期生、この春東京大学理学部数学科を卒業なさいました。在学中は「厳密な論証と数学的な直観」を日々鍛えていたそうです。バドミントン部の顧問でもあります。

同じく二年副担任の菊池琢馬先生(保健体育)は神奈川県出身で湘南工大付高から駿河台大学現代文化学部スポーツ文化コースに進みました。大学ではスポーツ社会学や歴史・栄養学などを学び、創部二年目の大学ハンドボール部に所属、四年次にはキャプテンとしてチームをまとめかつて五部リーグだった部を二部リーグまで引き上げる原動力として活躍されました。もちろんハンドボール部顧問です。

外所久典先生(数学)は、駿台甲府中・高(二八期生)出身で、六年間サッカー部員としても活躍されました。富山大学理学部数学科ではおもに幾何学を研究なさったそうです。公立中学校で一年間教鞭をとり、この四月から通信教育部に所属、美術デザイン科に出講していただいています。それぞれいろいろな形で「駿台」の教育理念を身につけた先生方が、さらに新しい駿台甲府の歴史を作ってください。



1年生の算数は生まれ月を考慮してクラスを作り直して行うのですが、3組のある男の子は算数クラスで1組に行くことになると担任の先生に「僕、また3組に戻ってきてもいい？」と尋ねたそうです。せつかく仲良くなった3組のお友だちや担任の先生と別れてしまうのが寂しかったのでしょうか。

最後に今年度の小学校の取り組みを書きまします。まず、家庭が人工芝になつたこと。小学生が人工芝で最初にや

たことはなんだかわかりますか？それは芝生の上に寝転ぶことでした。休み時間は子どもたちの歓声であふれています。2つめは、英語の強化です。今年度から、やまびこ学級の併設教室に英語を開設しました。授業より少人数で行えるので大きな学習効果が期待できます。夏には英語キャンプも行います。3つめは算数で少人数授業とティームティーチングを確立したことです。4年生以上ではアシスタントティーチャーが教室に入り、一人ひとりの取り組みを今まで以上に丁寧に見ています。駿小の新年度が始まりました。「強い網」で子どもたちの活躍を伝えますので、皆さん、ご期待ください。